

## 成績評価を終えて

成績評価を終えたところで、簡単に講評を行っておきたい。今回はぎりぎりまで出講していただけなのかどうか分からない知事もあり調整に苦慮したところもないではなかったが、比較的多くの知事に登壇いただけたか、と思う。知事の抱える課題はさまざまであるとはいえ、共通のものも多く、さらにはさまざまに見えつつも特定の事実前提から発する問題設定となっていると感じさせるものも多い。こうした一見バラエティに富むように見える話を、単なる連続講演会ではなく大学の講義としてテーマ性を持たせたものと受け止めてもらえるよう、知事を含む講師の方々とは丁寧に打ち合わせをしながら一定の方向性を持たせる努力をし、また、私自身も二度ほど登壇して中央地方関係の現状などについて講義をした。

定期試験の内容は、この講義を聞くにあたって当然持っていなければならない基礎知識を問うものとした。地方自治の制度や中央地方関係の実態について、他の講義でも聴く機会の多い学部  
に属していれば幸いだ  
が、そうした機会にあまり恵まれない学生には不利ではある。しかし、そうであるが故によけいに、この講義に臨むにあたっては自助努力が求められるであろうから、あえて特定の学部の学生にハンディを与えるようなことはしなかった。

採点をしていて、意外にできの悪かったのが設問の用語説明で問うた「革新自治体」である。一般的に政策革新を行うところというような答えが多く、革新自治体の代表格であった蜷川府政の故地で学んでいるにもかかわらず、その歴史は昨今の学生の頭には片鱗もとどまっていないのか、と、隔世の感を抱いた。また、「三割自治」など比較的簡単な問題かと思っていたが、3/10の三割ではなく、国・府県・市町村の「三つに割る」という意味に解している答案が多く、こういう答案を書く学生は、多くの知事が訴えた財政上の困難について理解したかどうか疑わしく、そもそも受講資格がないのではないか、と思った。

設問については、簡単なものもあれば、少し専門的な知識がなければ困るものも交じっており、全問正解を期待したわけではないが、7割は楽に取れるだろうという作り方であった。GHQの「民政局」や、「ホーム・ルール」、「フルセット」自治体などがすんなり答えられる学生が多くはいないだろうとは思っていたが、「融合」、「分離」とか「垂直」補完とかは、国語の問題に近いという気もしないではない。

知事リレー講義は人気講義でもあるため過大になっており、適正規模にすべきであるという声が各学部から上がっている。私としては、多くの学生に聴く機会を与えるべき講義であると考えてきたが、大講義室に着帽のまま遅れて入室し、始鈴の後もぐずぐずと着席せず私語をし、あまつさえ、知事の講義が始まって私語をやめない学生を目にすると、多少考えざるを得ないと思い始めていた。このたび答案の採点をしながら、講義についてくる努力をしていない学生が多く混じっているという確信をもった。知事に二回登壇いただくわけにもいかないの  
で、適正規模にするためには予備登録・受講制限をせざるをえないが、次年度はこの方向に踏み切ることにした。試験成績をにらみながら全学部  
に開講していること自体も考えた方がよいのかもしれないとも思ったが、学部全体としてはまずまずのところにもひどい答案はあり、その逆もまた言えるので、

受講制限の方法は少し工夫しなければならないとは考えている。

この定期試験の成績は、シラバスでもことわっているように、成績評価全体の8割を占めるものとしている。あとの2割は出席点である。私自身は出席を重んじすぎる成績評価のあり方には疑問を抱いているが、前年度のやり方を踏襲した。出席点を2割に抑えたのは、就職活動などで出席の思わしくない学生を救おうという配慮もあった。欠席していればこの項で得点できていないことは当然わかるはずで、そういう人たちは定期試験を頑張ってくれるものと期待していた。定期試験を頑張らないとそこで満点を取っても80点にしかならないのだから、出席があまりできていない諸君が定期試験でもふるわないという例に接する時、首をかしげざるを得ない。

定期試験では満点を取った学生はいない。80点満点で72点が最高だった。そこで、最高点72点を80点満点として、これを基礎に成績を算定し(より多くの学生の得点を高めに出すため)同様に、出席点も最高点15点(皆勤)を20点として日常点の算定を行って両者を加算した(72点答案を書いた学生が皆出席だったのでこの学生は標準化得点で100点となった)。本来はこれだけで60点以下を不可とする成績評価をするべきなのだが、これでは非常に多くの学生が落第してしまうので、合格最低点を下げ、これに連動してA、Bの最低点も少し下げた。A+は以上のような計算法で85点以上をとれた諸君に与えた。これでA+は23名(政策12、法9、文1、産1)である。これを90点に上げると13名になってしまう。全体にインフレ気味の成績ではあるが、A+をとった諸君は誇ってよいだろう。

受講登録者929名、A+ 23名、A 84名、B 266名、C 165名 という結果であった。

総じて、甘めにつけてはいるのだが、おおむね学生諸君はよく頑張ってくれたと思う。新年度は担当者も交替し、定期試験問題の出題形式も成績評価の方法も、ここで記したのと全く同じようなやり方が取られるとは限らないが、だいたいの枠組みは変わらないので、ここで記したようなポイントを押さえて、きちんと予復習をしてもらえるとありがたい。現役の知事たちが次々と足を運んで講義をして頂けるといふ機会に恵まれているのは、本学だけなのだから。